

=====

◆◇植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン vol.85◇◆

2017年8月10日号(第85号)

=====

-----◇◆ INDEX ◆◇-----

1. 当研究所の馬教授、山地准教授に「Highly Cited Researchers2016」認定証を授与
2. ゲノム育種ユニット教授の公募について
3. 共同研究(者)紹介 =第29回(連載)=
4. 大学院入学説明・相談会のご案内
5. 最近の研究成果について
6. 研究成果の紹介:投稿のお願い
7. 編集後記

-----◆◆◆-----

1. 当研究所の馬教授、山地准教授に「Highly Cited Researchers2016」認定証を授与

Clarivate Analytics社(旧トムソン・ロイターIP&Science)が発表した高被引用論文著者2016年版に、資源植物科学研究所植物ストレス学グループの馬建鋒教授、山地直樹准教授が選出され、7月25日に認定証の授与式が本研究所にて行われました。本選出は2015年に続き2年連続の快挙です。

詳しくは以下のホームページをご覧ください。

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/information/170801-1.html>

2. ゲノム育種ユニット教授の公募について

岡山大学資源植物科学研究所・ゲノム育種ユニットでは、教授1名を公募しています。締め切りは平成29年8月31日(木)(必着)です。多数の御応募をお待ちしております。

詳しい情報については以下のページをご覧ください。

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/recruit/public-offering20170710.html>

3. 共同研究(者)紹介 =第29回(連載)=

毎月ご紹介しています、拠点共同研究の研究者紹介の記事です。今回は、北海道大学の伊藤 秀臣 先生のご寄稿です。

共同研究を振り返って

北海道大学大学院理学研究院 伊藤 秀臣

私は、平成25年度から3年間「メリステム特異的なストレス活性型トランスポゾン制御機構の解明」という研究課題で拠点共同研究に採択していただきました。私どもは、シロイヌナズナを対象に環境ストレスで活性化するトランスポゾンの研究を行っております。そのなかで、本共同研究では、高温ストレスで活性化するトランスポゾンに着目し、活性化したトランスポゾンの転移がいつ、どのように起こるのか植物の組織レベルで明らかにすることを目的としました。シロイヌナズナの組織ごとにレトロトランスポゾンの活性化状態について解析し、転移の仕組みを明らかにすることを試み、特に植物のメリステムに着目し、宿主としての植物のトランスポゾン制御機構を解明することでメリステムの持つ新しい機能を理解することができると考えました。そのために、植物ストレス科学共同研究コア・土壌環境ストレスユニット・植物ストレス学グループのご支援により、高温処理を施した野生型、変異体の植物体からレーザーマイクロダイセクション法を用いて組織を単離し、組織特異的なトランスポゾンの活性を解析しました。その結果、茎頂分裂組織では、トランスポゾンの活性化が積極的に抑制されていることを示唆する実験結果を得ることができました。実験は共同研究者として博士課程の学生が精力的に行ってくれました。札幌とは風土の異なる倉敷での研究を毎回楽しみにしており、良い経験になったと思います。また、本共同研究がきっかけとなり、新たな共同研究も始めることができたことは大変感謝しています。最後に素晴らしい環境で研究することができた本制度と植物ストレス学グループの馬先生方のご指導、研究所のスタッフの方々の親身なご支援にこの場を借りてお礼申し上げます。

4. 大学院入学説明・相談会のご案内

植物研では2ヶ月に1回「大学院進学説明会」を開催しており、次回は9月22日(金)13:00～17:00です。

植物研の大学院に進学をお考えの方は、是非ご参加ください。

また、周りのご興味のある方へもご連絡して頂けると幸いです。よろしく申し上げます。

詳しくは、以下のホームページでお知らせしています。

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/education/education4.html>

【お問い合わせ先】

岡山大学資源植物科学研究所 鈴木信弘

TEL: (086)424-1661 E-mail: nsuzuki@rib.okayama-u.ac.jp

5. 最近の研究成果について

陸上植物特有のミトコンドリアmRNA制御機構を解説しました。

平山隆志

植物オルガネラRNAのポリA制御機構

生物科学 68: 223-231 (2017)

分節型ラブドウイルスのゲノム再集合(reassortment)を発見しました。

Kondo H, Hirota K, Maruyama K, An'dika IB, Suzuki N.

A possible occurrence of genome reassortment among bipartite rhabdoviruses. *Virology* 508:18-25 (2017)

赤潮原因藻ヘテロシグマのミトコンドリア・ゲノム上に存在する水域特異的な超可変領域配列についての研究。

Higashi A, Nagai S, Seone S, Ueki S.

A hypervariable mitochondrial protein coding sequence associated with geographical

origin in a cosmopolitan bloom-forming alga, *Heterosigma akashiwo*.

Biology Letters 13: DOI: 10.1098/rsbl.2016.0976 (2017)

以前ご紹介した以下の論文が日本植物学会 2017年度JPR論文賞 (Best Paper) に決定しました!
Yoshida R, Mori IC, Kamizono N, Shichiri Y, Shimatani T, Miyata F, Honda K, Iwai S.

Glutamate functions in stomatal closure in *Arabidopsis* and fava bean.

Journal of Plant Research 129: 39-49 (2016)

選考結果の詳細は、以下をご覧ください。

<http://bsj.or.jp/jpn/members/information/2017jpr-1.php>

6. 研究成果の紹介： 投稿のお願い

本メールマガジンでは、植物ストレス科学の研究成果をPSSNetの中で広く共有できることを目指しております。PSSNet登録メンバーの皆さまの最新成果の論文をご紹介ください。

メール本文に以下の形式で情報を書いてadmin@pssnet.org宛に、以下の形式で情報をお送りください。

(日本語紹介) <改行>

(著者) <改行>

(タイトル) <改行>

(掲載誌情報) <改行>

<例>

分子、細胞、組織レベルでのイネとイネ科植物における耐塩性機構についての総説。

Horie, T., Karahara, I., Katsuhara, M.

Salinity tolerance mechanisms in Glycophytes: An overview with the central focus on rice plants.

Rice 5: 11 (2012)

皆さまの投稿をお待ちしております。

7. 編集後記

先日は台風もありましたが、倉敷では連日30度を超えて、暑い日が続いています。倉敷や近隣都市では、夏祭りや花火大会などが開催されており夏本番を迎えています。

この高い気温のせいか、研究所の圃場のイネは、例年より出穂が早く始まっています。イネの研究をしていると、この時期はサンプリングや交配などで外の作業が多くなります。年々体が暑さに強くなっているように感じます。単に鈍感になっているだけかもしれませんが、人間も植物同様に環境ストレスに順応しているのかもしれない。

先日、カナダからの研究者が小生のところを訪問されました。彼は13年間も学部長のような仕事をされていて昨年、次の方に引き継がれたそうです。今年長期休暇を取られて、いろいろな国を訪問されているとのことでした。日本では、学部長や所長の任期は2年から4年くらいでしょうか？再任があっても10年を超えるというのは少し長すぎる気がします。彼は研究者としても優秀な方なのですが、研究能力と経営管理能力は関係があるのでしょうか？

とりとめもない話になってしまいました。
暑い日が続きますが、皆様熱中症などにお気をつけて夏休みをお楽しみください。

「植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン」
■発行日 2017年8月10日
■発行元 岡山大学資源植物科学研究所
植物ストレス科学研究ネットワーク (PSS net) 委員会
■WEBサイト <http://www.pssnet.org/>
メールマガジン登録変更・解除の手続きは
<http://www.pssnet.org/Registermember.htm>
をお願いします。

(このメールは送信専用メールアドレスから配信されています)